



「川口あそびと読書連絡協議会」

図書館や公民館、小学校などで本の読み聞かせ、おはなし会を行うほか、会報「あそびと読書だより」の発行など、子どもと本をつなぐさまざまな活動をしている「川口あそびと読書連絡協議会」を岡村市長が訪問。その活動内容などをお聞きました。

市長 みなさんこんにちは。8月に入り暑さ真っ盛りです。熱中症などに気を付けて、この暑い日々を乗り切ってください。

今月の市長のふれあい訪問は、「川口あそびと読書連絡協議会」のみなさんです。どうぞよろしく願います。はじめに代表の奥山さんにお聞きしますが、この会はどのような団体で構成されているのですか。

奥山 本の読み聞かせなどの活動をしている21の団体で構成され、図書館や公民館、小学校などで、子どもと本をつなぐ活動をしています。

市長 この協議会は、いつ発足したのですか。

佐仲 平成元年4月に発足しました。会員数は、現在約300人になりました。

市長 具体的にはどちらでどのような活動がされているのですか。

鈴木 発足当初から参加していますが、それ以前にも図書館で幼児対象に「お話し会」のボランティア活動をしていました。

大久保 東領家小学校で読み聞かせボランティアをしています。8時30分から15分間の短い時間ですが、毎週金曜日に行われている「読書タイム」に参加しています。

市長 この会に参加されたきっかけは何ですか。

佐仲 自分の子どもに絵本や「語り」をしてあげたいと思い、図書館で実施していた講座に参加しました。そこで読み聞かせボランティアを募集していることを知り、参加するようになりました。

市長 読み聞かせをしていて良かったなと思うことは何ですか。

宮原 同じ本でも、子どもたちによって反応が異なるので、毎回「生」の反応を肌で感じる事ができるのが、とても楽しみです。

市長 どのような基準で本を選ぶのですか。

工藤 季節や学年、年齢などを考えながら選んでいます。また、子どもたち自身にぜひ読んでもらいたいと思う本も選んでいます。

浜田 物語を楽しめ、ストーリーがはっきりしていて、読み継がれている本などをみんなで相談して決めています。

市長 私が小学生のころは、ワシントン、リンカーン、ナイチンゲール、野口英世、二宮金次郎など伝記を多く読みました。

子どもたちが読書することの意義は、どのようなところにあると思われますか。

奥山 読書をすることで想像力が膨らむということだと思います。また、言葉の力が育つこと、そして、読み聞かせをすることで、人の声を聴く力も育っていくと思っています。

市長 駅前の中央図書館は、この2年で270万



人以上の入館者がありました。文部科学省から、平成20年度の「子どもの読書活動優秀実践図書館」に選ばれましたが、これも、みなさんの活動が評価されたことだと、本当にありがとうございます。

みなさんの活動は大変意義のあることですので、子どもの心を豊かにするべく、これからもぜひ、がんばってください。

最後に、これからの抱負などをお聞かせください。

奥山 今は、人が育つことが求められる時代だと思っていますし、図書館も人が育つ場所だと思っています。その図書館と協議会も協力しながら活動をしていきたいと思っています。

一つ一つの会が元気に活動でき、子どもの将来を真剣に考える人たちが学び合えるような連絡協議会でありたいと考えています。

市長 今日は21団体を代表して、7人のかたにお集まりいただきました。どうぞ各団体のみなさんによりしくお伝えください。今日はありがとうございました。